

「土木広報大賞 2019」応募用紙

団体名：東京都下水道局			
代表者氏名：総務部広報サービス課長 井上 俊治		所在地：東京都新宿区西新宿 2-8-1 都庁第二本庁舎 28 階南側	
担当者情報	氏名：黒河 友貴	所属部署：総務部広報サービス課広報担当	
	電話：03-5320-6515	E-mail：S4000009@section.metro.tokyo.jp	
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・Web メディア部門	<input checked="" type="checkbox"/> アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input checked="" type="checkbox"/> 企画部門
土木広報活動または作品名：東京地下ラボ（若者向け東京下水道発信事業）			前回の応募：□有
広報活動または作品の概要			
<p><b>東京地下ラボ ～下水道の魅力を、編集の力で若者が再発見～</b></p> <p>&lt;事業概要&gt;</p> <p>東京都下水道局が平成 28 年度に実施した都民意識調査によると、下水道の役割（汚水の処理、浸水の防除、公共用水域の水質保全）に対する関心度・認知度は、若い世代ほど低い傾向にある。次世代を担う若者に対し、より深く関心を持っていただくため、東京都では平成 30 年度から、大学生とともに東京下水道の新たな可能性や魅力を発信するプロジェクト「東京地下ラボ」を開始した。30 年度は計 32 名の学生に参加してもらい、下水道の魅力を発信するツールとして、雑誌（ZINE：ジン）を制作した。</p> <p>&lt;具体的な取組&gt;</p>			
<p><b>①ワークショップ（平成 30 年 11 月 18 日（日））</b></p> <p>下水道事業に関する講義のほか、雑誌を通じて東京下水道の魅力を効果的に発信できるよう、「編集」をテーマとした講義を行い、その後、参加学生は各チームに分かれ、ZINE の制作についてディスカッションを行った。</p>			
<p><b>②フィールドワーク（平成 30 年 12 月 8 日（土））</b></p> <p>南多摩水再生センターを見学し、家庭や工場から排出される汚れた水が水再生センターできれいに処理され、多摩川へ放流される一連の流れを学習。その後、兵庫島公園へ移動し、多摩川に多くの植物や動物が生息していることを確認した。</p>			
<p><b>③成果発表会（平成 31 年 2 月 13 日（水））</b></p> <p>参加学生はワークショップやフィールドワークを通して学んだことを活かし、各チームごとに ZINE を制作した。グランプリが 1 作品、審査員特別賞（メディア賞・ソーシャル賞）が 2 作品の計 3 作品が受賞した。発表されたものは、下水道とファッションをテーマにしたもの、汚水を処理する微生物を紹介するものなど、各グループで個性が光る内容であった。</p>		 <p>【グランプリ受賞作品】 『私と川と、サンドイッチ』 清流復活事業に着目し、東京下水道の働きによって復活した川と、その川に合うサンドイッチを紹介</p>	
⇒全 8 種類の ZINE 掲載ページ <a href="http://www.gesui.metro.tokyo.jp/business/kanko/chikalabo/index.html">http://www.gesui.metro.tokyo.jp/business/kanko/chikalabo/index.html</a>			

広報活動または作品の効果

- ・当プロジェクト実施の様相が数多くのメディアに取り上げられた（TV1件、業界紙誌2件、WEB51件）。また、CINRA や note といった SNS と相性の良い WEB 媒体を活用し、若者へ広く取組状況を発信。
- ・当プロジェクトに学生を巻き込み、学生の自由な発想によって創られた ZINE を活用することで、より効果的な情報発信を推進（取組状況の発信 note：<https://note.mu/tokyogesuido>）。
- ・学生の自由な発想に期待する一方、どれも同じような作品ができてしまうのではないか、という懸念があった。しかし、それを見事に裏切り、計8種類の ZINE はどれも個性的で従来にない切り口から下水道の役割をとらえ、参加学生自らの視点で下水道の魅力を伝えており、下水道が持つポテンシャルに改めて気づかされた。
- ・制作した ZINE は、今後、都内大学や各種イベントなどで幅広く配布し、活用を図っていく。
- ・今年度のプロジェクトでは下水道の魅力を発信するツールとして、ZINE に代わり動画を制作し、さらに取組を加速させていく。

付属資料の提出

有・無（どちらかに印（✓）を付けてください。）